

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311

親孝心

「親孝心」 三宅 白城 書

をやの思いをにをいかけ、

うちうち
内治に心を配り おたすけに誠の心を尽くそう

1. 一歩前進 百万軒
2. おつとめの徹底とひのきしん
3. 機を逃さずおさづけの取次

五月二十一日 学生層育成者講習会 講話

信仰の伝承のため、 飽くなき声掛けを

本部 学生担当委員会 育成部 委員
伊藤 芳正 先生

形ある組織が行先長く生成発展を遂げていくための条件として、次世代の育成が挙げられます。次を担う者が育っていないければ、現在、どれほど活発に活動していても、何十年も経てば当然その勢いも陰るといえます。

本日は、学生層の育成ということについて、その大切な次代を担う若者をどう丹精するかという点についてご相談申し上げます。

▼元を伝えなければ代は続かない

「唐様(達筆)で売の家と書く三代目」という川柳があります。初代というのは、大変な思いと決心をもって、何にもないところから一生懸命形あるものを立ち上げていく。二代目は、共に苦労しているの

ら立ち上げたものを、三代目がまた何もなしにしてしまうという、人の道として陥り易い姿を歌った歌です。

して「元一日」ということをお聞かせいただきます。諭達にも「いかに文明が進歩しようとも、病む人は絶えず、悩みの種は尽きない。心が救われることはない。それは元を知らぬからである」とあります。

しかし、この「元一日」ということがなかなか伝わっていきません。こを伝えていく丹精をしなれば、入信の動機も、先人の苦勞もわからなくなってしまう。道が伝わり難くなるでしょう。

「年限という、年限なくば美がのるまい。年限段々重なれば八丁四方になる事分からん」と、年限を重ねることが、四方八方に成り立っていく大きな秘訣であると、お聞かせいただき、



第50回こどもおぢばがえり

7月26日～8月4日(10日間)

今年は「こどもおぢばがえり」が始まって50回目の記念すべき年です。全国各地、また海外より大勢の道の子が夏のおぢばに帰ってきます。笠岡大教会では全教会からの帰参を目標に掲げております。各教会から一人でも大勢のお帰りをお待ち申し上げます。また、期間中7月28日・30日・8月1日の3回 午後6時より

詰所中庭で模擬店を開催します。お楽しみ下さい。

また、「二代切り」と思ったら頼りない。一代は一代」とも仰せいただきます。

一代を長い年限を重ねてお通りになる方は沢山ありますが、一代では頼りないとの仰せですので、年限があればこそ八方四方に伸び広がるというのは一代限りのことではなく、一代・三代と代を重ねていくことになり、そこに「守護」につながる歩みがあると思わせていただきます。

そういう点で、先ず身の回りにおられる学生層の方々にその家の信仰の元一曰をお尋ねいただきたいと思えます。恐らく答えられない若者が多いと思いますが、若者のみならずその親さえも知らないということがありえるわけです。これは、年限を重ね道を代々と重ねていく上に非常に心配しなくてはならない現状だと思います。

▼若者は厄介であるが……

「若い者寄り来る所、厄介。世界から見れば厄介。なれど道から厄介ではない。道から十分大切」というおさしづががあります。神様は、若い者というものは往々にして厄介だが大切だと仰る。

どのくらい大切かと言えば、続いて「十のものが九つ半大切に半分だけ出来ん。十のものの半の理で九つ半まで消す。」と仰る。信仰が十だとすれば、九つ半まで大切に。おつとめ・日参・ひのきしん。にをいがけ・おたすけ……九つ半(九十五%)を大切に



にして通る。しかし半の理(あと5%)を大切にしながらのためにその九十五%を全部消してしまうと仰るのです。

その半の理とはどういうことか。続いて「出てたすけるも内々でたすけるも同じ理や」と仰る。要は、外に向かつて一生懸命にをいがけ・おたすけ・ひのきしんすることも大切だが、縦の伝道を疎かにすれば、一生懸命通ったその信仰が全部無くなってしまふということなのです。そのべらい次の者を丹精することが大切だと仰るのです。

それでは、厄介とはどのようなことでしょうか。若者というのは、理想とか理屈でいるんなものも推し量る年代です。言わねば、学生層というのは、往々にして自分のことは一切棚上げて、自分以外のものは理想や理屈で測るうとする。これは、元から物事を見ていくうとする私たちと全く正反対から物事を見ている時代だと思えます。そこが、厄介なのではないでしょうか。

逆に、その理想から説き起こすということについては若者はいとも簡単に靡(よ)きます。その最たる例がカルト教団で、あるべき理想・ユートピアの世界から若者を引っ張っていくのです。本来あるべき理想で若者を惹き付けますから、そこには今の現状に対する不満しか生まれてきません。理想を強くするとすることは向上心であって大切ですが、それだけが

こかん様に続く会

日時 平成15年8月23日(土) 午後4時半 受付・5時 開講

24日(日) 午後1時半 閉会予定

場所 笠岡大教会

内容 支部長様挨拶、お話し、にをいがけ、ひのきしん、お楽しみ行事、(バーベキュー、花火)他。

対象 中学3年生～高校3年生

(教会子女は必ず参加して下さい。)

すべてになると、自分が向かおうとする理想に則してこないものを全部敵対視し、今ある現状に対する不満・不足という感情が生まれてくるのは当然です。天理教にも陽気べらしという理想がありますが、真柱様から改めてお聞かせいただきましたように、常にどんな事も元から説き起こしていく姿勢が大切なのであって、若者を育成する者としても大切な心の置き所ではないかと思えます。

理想だけで向かってくる若者に、こちらも理想だけで向かっていくと、そこに生まれてくるのは対立でしかないように思われます。

しかし私たちは明らかに違う次元であって、もう少し大きな次元で行先のことを考えていくのが私たちです。そういう気構えをもって若い人たちに関わると、これこそ正しく真柱様より「若い者を育成・丹精するのは、おたすけの精神で接してもらいたい」とお聞かせいただくお互いの心の置き所ではないかと思えます。

そこに意識を置かなければ、どうしても、厄介な者にはなるべく関わらないでおこうという心が湧いてくるのは自然ではないかと思えます。そこをとにかく一歩踏み越えることが、若者に向かっていく育成者としての気構えとして大切だと、こう神様はお聞かせをいただいていると思えます。



論議に「機を逃さぬおたすけ」とあります。人が難儀不自由していることを知っていても、たすけ心がないと、知っているだけに止まってしまい、こちらが手を差し伸べなかったがために取り返しのつかないことにならないとも限りません。

たすけたい・育てたいと急する私たちは、何を育てても育ててほしいと思う人を常に見ている、常にその人に目を配っているということがないと機を逃さぬおたすけなどは出来ようがありません。

煩わしかろうがどうであろうが、育ててもらいたいという人に常に目と心を配るということが、育成という上での第一歩の努力ではないかと思えます。

▼先ずは、多くの学生を寄せることから 教内のいろんな動きが少し頭落ちの中で、学生会活動だけが年々伸び広がっていますが、そこには三つの大きな要因があるように思います。

先ず一つは、楽しいか否かの物差しで全てのことを測っている若者に、絶対的に楽しいという環境を提供しているという事です。

それでは、何が学生にとって楽しいのか。それは同年代の多くの者が集まっているということ、これにまさる楽しみはないと実感します。

今の若者は、自分がみんなと同じだということに非常に深い安心感や価値観を見出し出しているのです。みんなと同じ環境に置かれることが安心出来る楽し

少年会笠岡団 夏期練成会 (サマー キャンプ)

と き	8月22日(金)～8月24日(日)
と ころ	観音寺ファミリーキャンプ場
内 容	ハイキング、水泳、キャンプファイヤー、野外ゲーム他。
対 象	小学3年生～中学3年生、高校生はスタッフとして参加。
定 員	50名
参加お供	3,000円(米2合と野菜1品)
申 込 み	8月18日迄、各ブロック委員に申し込んで下さい。

みの場になると思います。

今の子供たちは、少子化で、過干渉・過保護気味に扱われているので、子供たちの内面的な発達を抑えつけられているということが多々あります。そうした子供たちが複数の多くの仲間が寄り合い、親の目も届かない環境に身を置くと、大変生き生きとした内面の明るさ・若者特有の大きなさが、次から次へと生まれてきているような気がします。

ところが、各教会で学生層を育成していることと思っても、同世代の人を多く寄せることは非常に難しいことで、また、たとえ来てくれたからと言っても、上げ膳据え膳の特別扱いをしたら、彼らにとっては返って居心地悪いことになります。

従って、本部はもとより大教会挙げて・教区挙げてというふうな、そういう単位で学生層育成に関わっていくことが大切ではないかと思えます。

▼変わるべき自分に気付かせるには
一点目は、徹底的に自分の心の位置を見つめ直すことです。

彼らが日常的に経験している人との関わり合いは「1対多」という関係です。学校でも教会でも先生からの取り次ぎを聞くだけ、1対多という中でのコミュニケーションが始まっています。

また同世代の若者同士でも、真面目にいろんなことを話し合っていることも殆どありませんし、更にメー
ル友達は何百人もいて、必ずと希薄な付き合いしかしていません。



その若い人たちに、学担では、少人数で徹底的にお互いの心の内を見つめ合っていく、HARPというグループワークをさせています。

その中で学生たちは、自分にも変えるべきところがあるということに気がきます。

変わらねばといても中々変わるものではありません。何をどうしたら変わるのか。

変わっていく一番の原動力は、変わりたいと思う本人が、自分にも変えるべきところがあると気付くことです。昨日の自分と今日の自分とは違う、成長したと分かることが、変わっていく一番の原動力です。

自分の変わるべきところに気付かないままでは、いくら努力しても変わりません。自分には変わるべきところがないという自己の過大評価があるようでは、生涯かけて心の成人を目指していくこのお道にあっては、成人しようと思っ
ていても変われないということになります。

グループワークを通して学生層は徹底的にいろんなものを見つめていくことによつて、各々が、自らの変えるべきところを気付いていきます。そうして気付いていけば、たった一週間の間でも変わっていくことができます。

神様は「ほんの自覚」と仰います。学生層はその年代でよければいいものではないですが、HARP

ENGLISH SEMINAR

- ◇ 期 間 8月22日(金) 午前10時 受付 ~ 24日(日) 午後2時頃 解散
- ◇ 受講対象 中学一年生以上 ~ 高校・大学生・一般。
- ◇ 受講御供 2,500円。
- ◇ 持 参 品 英和・和英辞典、筆記具、着替え、洗面具。
- ◇ プログラム パソコンを使った英語の学習、英会話、おつとめ
レクチャー、ひのきしん
- ◇ お問合せ 詳細は、スタッフの 香取 雅人 ☎(086-528-0850)
吉岡誠一郎 ☎(086-282-0550)
(ご連絡下されば、JR大門駅まで送迎致します)

の繰り返しの中でそうしたものを身につけていきま
す。

「若者は厄介」というのは、どうしようもない凝
り固まった厄介さではありません。それはちょうど
芋虫が蝶々になる前には必ず繭をつくるのと同じで
あって、殻(自分だけの世界・価値観)に籠もってい
るのは、側から見たら厄介でしょうが、その時期と
いうのは、一度社会と繋がりを切っていくのであ
って、触り方一つで殻から出ないで済んでしまっ
た。それとも蝶々になって羽ばたいていへかに別れます。
そういう時代にあるのが学生層なのです。まさしく
この変わり身です。彼らのそうした大きな成長を促
すのが、徹底して自分の物差しに目を向けさせるプ
ログラム・HAPPYです。これが二点目です。



▼どうしても尽くし切る喜びを実感させる

そして三点目は、徹底して教えの実践をさせる
ということですが、HAPPYは、徹底して心を内に向
わせる一方、外に向かつては無条件に教えの実践を
身に行わせます。

教理というのは、ある程度知識で学ぶことは大切
ですが、それを実践しなかったら信仰心には繋が
りません。

そして、日々、自己中心的な生き方をし、常に自

分の思いを解ってもらいたい、自分の思
うようにしてもらいたいという彼らに、
人のために心を尽くすという信仰実践を
繰り返させるのです。

私は、人間というものは、人に心を尽
くした分しか、自分がどれほど人のおか
げで今があるのかということに気付かな
い生き物だと思います。

ギブ&テイクという表現があります。
尽くしただけの見返りがあるという考え
方ですが、教祖からお聞かせいただい
ているのは、そうではなくて、ギブ&ギブ
だと思えます。尽くして尽くして、その
中に味わえる「陽気べらし」ということ
を私たちは教えていただきます。

ギブ&ギブの上に味わえる幸せ、この
豊かさを学生たちには徹底的に実感して
もらうのです。そうすると、人に心を添
える豊かさ、人に自分のことを思ってい
ただける幸せを、理屈ではなくて実感し
てくれます。

その感性が、常に「親の言うことなん
か聞くもんか」「俺は俺だ、勝手じゃん」
という生き様だった学生たちの心に、物
の見事に作用して、御教えを我がものに
していくように思います。

以上申した三点が、学生会の行事の三
大要素だと思います。

・原・稿・募・集・

内 容

- * 小随筆 ミニエッセイ(心に思い浮かぶままに書いた感想文)で、信仰的
な内容であれば傾向は問いません。
- * 「今私のところでは」
他の教会・布教所と違う独自の活動などをご紹介ください
- * 俳句・和歌・川柳(傾向は問いません)
- * 教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字~1200字)。
題名・所属教会名・氏名を明記してください。
俳句等は1首からでも結構です。

寄 稿 先

下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿ください。



郵便 : 〒714-0066 笠岡市用之江377
FAX : 0865-66-1314
電子メール : kasaokazaki@rio.odn.ne.jp

なお、原稿はお返しいたしませんので、予めご了承ください。

▼繰り返しして声掛けを

しかし如何ほど素晴らしいプログラムを用意しても、各教会から押し出していただかないと彼らは限られた学生生活の中で一度もその感動や感激・安心を味わわないで次のステップに進みます。これは勿体ないと思います。

そうした上から、学担のスローガンとしては、学生一人ひとりに月に一度は声をかけましょう、というのを申し合わせています。

具体的には、「はっぴすと」という学生会の機関誌を皆様方からしか声の掛からない高校生に手渡ししてもらいたいという事を繰り返しお願いしています。

私たちの信仰は、理の声掛け・旬の声・がばからの声を戴くから、日々、一歩一歩に通らせていただけるのではないのでしょうか。

笠岡大教会でも、大教会から旬の声を戴くから部内教会が一つの方向に向かって、親神様に一番お受け取りいただける一歩一歩という姿がそこに生まれるのではないかと考えます。

旬の声・親からの声は「たすけの綱」だということこそはそこにあると思います。

常に旬の声をしてくださる人があるということとは、たとえその時には疎んじられたとしても、振り返ってみれば、感謝され、将来的な信仰に繋がっている筈です。



お言葉に「日々という、言葉一つという。言葉一つがよぶべきの力なら、みなそれに凭れて若きは育つ」とお聞かせいただきませう。日々常々声掛けてやってくれ、言葉一つがよぶべきの力だ、その繰り返しの方が、たすけの綱となつて若い者は育つていくんだと仰るので

す。

また前真柱様はこのようにお聞かせいただきませう。「いっぺんで解らなければ、二度三度。それで解らなければもう

と分かり易く、その子の得心のいくような表現の仕方に、今までの表現の仕方を変えてまでも心を配っていただくの大様さというものが是が非でも必要だ。それによつて若者が育つも育た

んも決まると申しても過言ではない」と、声掛けと、その工夫についてお聞かくださっています。

絶対に一言言つて「ああ、そんな行きます」とは言いません。それほど素直ではないわけです。しかし、必ず何としても行ってもらいたいという心は通じるわけです。

〈以上要約〉



▽今回の課題は「全」、撰六十九句中、笠岡に繋がる教友の方二名、二句が見事撰ばれ掲載されていきましたので転載させて頂きます。

おめでとうございませう。

佳詠

若阪布教所長夫人

杉原優子

全教が仕切つて

成人全うし

佳詠

若井分教会長夫人

佐藤香苗

全身の自由用

身に沁む病床の中

養徳社発行『陽気』誌六月号、「道柳」より転載。

この「かさおか」誌に於いても、ジャンル、自薦他薦は問いませんが、ドシドシ読者の皆様方の才能溢るる作品のご寄稿を、お待ちしております。

婦人会芝罘支部総会 賑やかに終える

五月二十二日(木)午前九時半より六百余名の参加を頂き、喜びのうちに第二十一回総会を開催致しました。昨春秋、支部長様のご身上から、委員会で全委員部残らず、「別席者の御守護を頂こう」を合



言葉に、総会への心定め、更に後継者育成の上に丹精させて頂こうとつとめてまいりました。

当日、お天気の御守護を頂き、委員、全委員部長によるおつとめまなび、続いて式典、大教会長様より初代会長上原さと

様の親孝心の道すがら、並びに内々を治める心遣いについてお仕込み頂きました。又、支部長様からは、教祖のひながたをたどり、教祖百二十年祭活動の底力となりましょうと、婦人会の歩むべき姿を事細かにお話し頂きました。昼食後、記念講演として、AMD A (特定非営利活動法人) 理事長 菅波 茂医師による、世界宗教としての天理教に期待するお話しをして下さいました。又、ひまわり会、女子青年によるせんざい、カップケーキ、オレンジゼリー、コーヒーを出店、参加者の皆様に喜ばれました。参加者全員、教祖百二十年祭へ向けての誓いも新たに感激のうちに総会を終えました。

諸先生方をはじめ、部内教会長様、青年会員の皆様方の御力添えを頂き、盛大裏に終えさせて頂きました事を、紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

有難うございました。



(模擬店 風景)

「全教一斉 ひのきしんデー」に思う

香地華分教会長 渡邊 勇喜

福山支部の「ひのきしんデー」は、日を分けて何ヶ所かに分かれていて、どこの「ひのきしんデー」に参加出来るようになってる。毎年私は二回程参加させて頂いているが、今年は都合で十八日の神辺の老人ホーム一ヶ所のみ数名で参加させて頂いた。その日は丁度、地域の運動会や道掃除などが重なって、ちょっと少ないかなと思っていたら、だんだんと集まって来た。その中に親と子、孫三代で共に汗する。或る教会の家族の姿を見、ほのぼのと心温まる思いがした。親の勇んだ姿は自然と子へ受け継がれ、自ずと信仰も伝わる。陽気べらしされている教会だなあと考えた。

先日、大教会でAMD A (アムダ) 会長の菅波先生のお話を聞かせて頂いた中に、「難民のボランティアとして世界に出せる人間、それは幸せな人でないといけない。幸せな人はみんな幸せになってほしいと願う。逆に世界に出せない人は、不幸な人。不幸な人はひとの幸せをうらやむ、又ひとが自分より幸せになってはいけないと心の中ではひとの不幸を喜んでる。こんな人はボランティアとして世界に出せない」と話された。心のともなわない高慢な親切ほど貧しいものはないなと思った。私達お互いは

「させて頂く」心ではなく、「してやる」心になってはいないか、考えさせられた。お道では「人をたすけたら我が身たすかる」と教えらる。ひとの幸せは自分の幸せ、ひとの幸せを喜べる人間でありたい。

話は「ひのきしんデー」にもどるが、昨年の事、この老人ホームで草刈りをしていた人が草むらで財布を見つけて園の事務所へ届けた。ひのきしんが終わって、園の方から「持ち主がわかって届けたら大変喜ばれて、よろしく言って下さい」との事でした。」と報告があった。園の近くで畠をされていた御婦人の貴重品を入れた袋を犬がどこかに持ち去ったという事でした。小さなことですが、財布のもどったその人も、ホームの人も、ひのきしんの人達もよかつたくと喜んだ。さすがしい一時でした。そんな事を思い出しながら、今年もいい汗をかきました。



有り難かった実修会

笠岡大教会 上原 志郎

五月四日、河佐分教会へ行かせて頂いた。百以上ある教会の中から私が当たる教会は縁のある教会だと嬉しく思っていたと同時に、百名以上いる要員の中でも一番下手な私が行く教会は、かわいそうだなあという複雑な気持ちで臨みました。

ゴールデンウィークな日なのに好天の日に、月次祭に来られる人は、信仰熱心な方々に違いないと思っていました。予想通り、一時間近くに及ぶ私の下手な話を最後まで、熱心に聞いて下さった二十数名の方々に頭が下がります。

先だって本部の先生より聞かせて頂いたおきさげの解釈の流れを、大切なおきさげの理に関わるものとして、私がアメリカ布教中におきさげを通して経験した不思議な体験を交え、説明させて頂きました。昼食の後、にをいがけ、そして、一時間程の反省会(信仰談、及び雑談)で時間を過ごしました。

大学で宗教学を学んだもの、おきさげについては全くの無知で、大切な角目には必ず引用されるおきさげの勉強を前々からしたいと思っていたの

で、結構な機会を与えて頂いて、何より自分が嬉しかったです。実修会后、五、六名の方から「おきさげの理拝戴後、おきさげについて初めて聞かせて頂いて本当に勉強になった」という声を聞かせて頂いた事は、私にとっては何よりも嬉しい声でした。この度の実修会で、共に勇ませて頂く機会を与えて頂き、体調の万全でない私にでもつとめられたことが、ありがたい実修会でした。

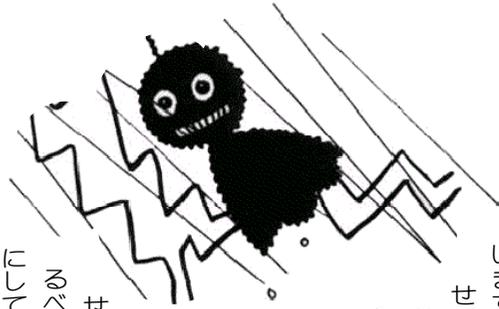
にをいがけ・おたすけ実修会 に出向させて頂いて

福成布教所 藤井 正仁

そもそも私は、昔から勉強は大の苦手でありますが、嫌いという訳ではないのですが、体が拒否すると申しましようか、どうも眠くなってしまつてさっぱりと頭に入らない。話など聞くものなら必然的に子守歌に聞こえてしまつ、でありますから連絡事項だけの会議なども同じく、いつも苦痛との戦いがあります。そんな私でありますので、常に肉体労働派で今日まで勤めて参りました。「おきさげ」の勉強をさせて頂いて、恥ずかしながらわずかな信仰生活の中で自分が納めようと努力したこと、ふいかからお教え頂いたことなどがあらためて読ませて頂いた時に「おきさげ」が、大変神饌でなるほど大事な言葉だと痛感致しました。しかし、心に治まっていなものがお取り次ぎ致しますもので、大変聞き

取りにへく当該教会の皆様には「迷惑をお掛けした
ことと思います。因縁あって行かせて頂いた教会の
会長さんは、私は教えては頂きませんでした。元我
母校、高校の英語の先生でありました。何とか私な
りに勇んで頂きたいと懸命の努力を致しましたが、
お集まり頂いた皆様には私の通り返しのお見せ
頂きまして、なかでも椅子から滑ってこけそうにな
られた方を見かねて隣の方が「布団敷いて寝たら」
の一言は、どれだけ今日まで色んな方に失礼な態度
でつとめておったかと、深くお詫びをせざるを得な
い心境でありました。

小さいながらも、布教所長をさせて頂いているお
かげで言葉一つにも責任を感じさせて頂くことが
時々ありますが、そのたびに思います「これは教えを
ほんとに知らない、知らないだけだ」とつくづく思
います。また、何遍も聞か



せて頂いたお話が少しす
くなるほどと思えるよ
うな事のある今日、信
仰させて頂く事が
楽しく、また、つ
れしく思います。
この御年祭活動、教
祖にお喜び頂ける
よう勇んでつとめさ
せて頂きたいです。な
るべく、居眠りせんよう
にしよう。

「報告書」より・・・

深安分教会 北村立人

皆さん真剣に話も聞いて下さりとても良い感じだ
す。お年の会長さんを盛り立て、立派と思う。
にをいがけ実修は、田植えの最中でもあり留守の
家がほとんどで、ポスティングをよぎなくされまし
たが、手渡しの出来る事もあり感じよく受け取って
下さり、所の良さを感じました。後のねりあいはほ
んど自分の雑談に終わり、申し訳なく思っております。



日々よろこびにつつまれて

島根分教会 面谷 美恵子

突然の原稿依頼の便りを受け取り「何で私か？他
に偉い教会長さん布教所長さん方がおいでなのに」
と戸惑いながら、第一「かさおか」の機関誌のある
事も知らぬ未熟者です。

自分出来る事、先ずはひのきしん、ポランティ

ア身上かしの・かりもの理で、元気に
通らせて頂い
ている感謝
の気持ちの
お返し、そ
れと、父
の姿を観て、
陰ひなたなく
ひのきしんを
していた後ろ姿を今も思い出します。ポランティアを
始めたのは両親の出直しの時、私に出来ない事まで
義姉さん、「布教所長」の親身な介護のお陰、感謝
しています。親に出来なかつた事を人様に少しでも
役立ちたいと、ひのきしんスクール、大阪のポラン
ティア協会で知識を勉強させて頂きました。ポラン
ティア、ひのきしんと勝手に動いています。これ
も理の親である島根があつて主人やお嫁さんが留守
を守ってくれますので有難いです。二十年前修養科
の先生から「口と心と行いが一つになるよう」つと
めて下さいと励まされ、及ばずながら少しづつ実行
に現しています。有難い事に幼稚園に行く孫が、同
じように「三拾ひのひのきしんを一緒にしてくれま
す。



お道の上での通り方に満足はしていませんが、百
二十年祭のこの時に親神様教祖に喜んで頂けるよ
う何事にも喜び勇んでつとめさせて頂きたいと思
います。

精一杯泣いて笑って八十年

芦方布教所長 原 コト

親からの信仰を受け継いで八十年。思い起こせば波瀾万丈の人生だったように思います。

その中でも特に心に残っているのは、教祖七十年祭の時の事です。教会へ十年住込ませて頂いていた時、教会のふしんと年祭の御奉公とが重なり、食べ物もお金もない中、一生懸命勇んで勤め切らせて頂きました。年祭を終え、ホッとした時、ある信者さんの出直し。その方の後を継いで、新市町の相方に、布教所を持たせて頂きました。親会長様も大変喜ばれ、芦方布教所と名付けて下さいました。



家族六人、単独布教同然でしたが、せんべいや、下着を売りながら一生懸命、布教させて頂き、親会長様、親奥様に喜んで頂いた事で、親孝行ができたと思んでいたのも束の間、思いも寄らぬ程莫大な借金を背負ってしまいました。一生懸命布教している何事も成って来るものと思いがかり、御守護頂けると思いましたが、親神様は

「まだまだ、そのような徳はないで。」と笑われている様な気が致しました。

おふでさまに、

人のものかりたるならばりかいのり

のお言葉。

心が急いでおりました折、今は亡き名古屋大教会理事、津留田様の店、中華そば「陽気」との出会いがありました。親に黙って、夜逃げ同然で、お社を一歳になったばかりの長男に背負わせ、ふるさとを後にしました。親子六人、六畳一間、共同台所、便所という所より、新しい生活がスタートしました。店とは名ばかりで、一坪半の広さでした。理の親に「この親不孝を、お許し下さい。」と、手紙を出す、「親不孝を許すような教理はない」と、お諭しされました。私は一生懸命、親不孝を詫びて通らせて頂く決心で、今日まで如何なる中も親孝行第一、また、教祖の万分の一でも通らせて頂くこと、に

をいかけ、おたすけ、おつくと、頑張ってきました。親神様は、私達をお許し下さったのか、「陽気」のそ

お知らせ

大教会2階 事務所棟 女子便所内にベビーベッドを設置しました。神殿付近で幼児のおむつ替えをされる場合は、ご利用ください。



よろしく

ばを、前真柱様に二度、真柱様にはこの度、広島教務支庁で召し上がって頂く事が出来ました。形は親不孝でも、親孝心で通らせて頂いた事、一生懸命ならば、何事も成って来るものと確信致しました。子から孫まで、親神様を信じてついて来てくれる昨今です。

教祖百二十年祭、上級高屋のふしんと重なり、これ又、五十年前に振り返り、皆心をひとつに、一生懸命伏せ込ませて頂きたいと思えます。まだまだ八十歳、今から頑張ります。

五月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には一列子供かわいい一条の親心のまにまに天然自然の働きはもとより心の自由をお与え下さり身体をお貸し下さり陽気ぐらしへとお育てお導き下さり下さり下さり事は誠に有り難く日夜御礼申し上げておりますが心の使い方を誤り陽気ぐらしと掛け離れて身上事情に苦しむ人が多くいます事は誠に申し訳なく私共は一人でも多くの人に親心がわかり陽気ぐらしへと向かって歩みだして頂きたいものと「つとめとさづけ」を通してたすけ一条の上に勤め励まして頂いております

その中にも今日の吉日はこれの笠岡の五月の月次祭を執り行う定めの日柄でございますのでおつとめ奉仕者一同喜び心も一汐に明るく陽気に勇んで座りつとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には今日の日を待ちわびて寄り集い日頃の御高恩に改めて御礼申し上げ同じ思いに伏し拝む皆の状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますよう御願ひ申し上げます

さて地方講習会を通して教祖年祭への思いをより強くさせて頂いて申し合わせた実践項目の実動を通して成人の歩み進めさせて頂いておりますが未だ参加出来ずにいる人もいますので残された一ト月余りの中で全ようよく参加を目指してどうでも参加して貰えるよう声掛けさせて頂く所存でございます 又九月までに全教会でをいがけおたすけ実修会を開催させて頂いて実践項目の実動に拍車を掛けさせて頂く所存でございます 更には又本日は学生層育成者講習会を開催して育ての意識を強くし又明日は婦人会笠岡支部総会を開催させて頂いて夫々が関わる人々の成人を支える台との思いを強くして年祭に向けて成人の歩みを進めさせて頂く覚悟でございます

何卒親神様には世界情勢や経済状況を考へるとどうしても我身に囚われがちな世の中にあつて自分を見失う事なく親神様の思召をしつかり心に湛えて陽気ぐらし実現を目指したすけ一条に邁進する皆の真実誠の心をお受け取り下さいます方たすけの上にも更なる自由の御守護を賜り人々の心に思召が染み渡ってお望み下さる陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお連れ通りの程を一同と共に慎んで御願ひ申し上げます



ある日の山陽新聞の川柳欄に、「すり減った亡父の鍬から汗が噴く。」という句が載っていた。それを見た途端、雷に打たれたように走ったものがあった。それは親父の教服のことだった。

親父が出直してすでに三十数年が経つ。その当時、いろんな物を整理、処分したが、どうしても処分出来ないものが二つあった。一つは着るした背広。もう一つは教服だった。この二つだけは今も大切に保管している。

前述の川柳に「教服」という二文字を入れてみた。

「すり減った亡父の教服から汗が噴く。」

まさにその通りなのである。古ぼけた背広を着てボロ車に乗り、教服を風呂敷に包んで荷台にくくりつけ、にをいがけ、おたすけに東奔西走していた。そんな親父の背中を見ていた。小学生から中学生の頃である。

昭和十九年頃から二十年代にわたり、日本列島隅から隅まで物は無い、食料はない貧乏の中、天理教の教会という教会も例外ではなかった。大勢の子供を抱えて貧乏には事欠かなかつた。暑さの中、寒さの中、教服一着を持って、にをいがけ、おたすけに奔走していた親父の姿が子供心に焼き付いている。親父の教服と背広には、汗と涙が染み込んでいた。そんな物を処分出来るわけがない。我が教会の宝として伝えたいと思っている。ふり返つて今の我が姿、親父の十分の一にもとどかない。情けない話である。